

会員紹介コーナー

そろばんを「習う」から「教える」へ

大月支部 荒井博達

子どもの「習い事」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。

水泳・ピアノ・英語・書道・柔道や体操等々…習い事はいろいろあります。最近では「プログラミング」が子どもの習い事としてとても人気で、習い事の内容にも時代を反映した変化はあるようです。しかし、そんな現代においても、ピアノや書道などと同様に、昔から変わらず根強い人気を誇る習い事が「そろばん」です。

私自身、親のすすめで6歳からそろばんを習い始め、高校3年生で辞めるまで12年間に渡って練習を続けました。週6日のそろばんの練習を続けていく中で私が得たものは、そろばんの技術や暗算力だけではありません。級や段に合格した時の喜びや達成感、切磋琢磨したライバルの存在、県大会や全国大会に出場した経験など、仕事に追われる今となってはなかなか得ることができない様々なものを得ることができました。

そんな私は今、そろばん塾の一講師として、税理士業務をしながら子どもたちにそろばんを教えています。IT化が進み、生活の中でそろばんをあまり見かけなくなった現代において、「今時そろばんなんてやる人いるの?」と言う人もいます。しかし、

意外と自分の子どもにそろばんを習わせたいと考えている人は多く、教室内にはいつもたくさんの生徒が弾くそろばんの「パチパチパチ」という音が響き渡っています。

普段の税理士業務では常に大人を相手に仕事をしているだけに、子どもの相手をしながら何かを教えるという事はとても新鮮で楽しく感じられます。子どもたちはとても素直で純粋です。教えたことは素直に聞き、嬉しいときは顔や体全体を使って喜びを表現したりします。時には検定試験に合格できず、人目をはばかることなく涙して悔しがっている光景を目にすることもあります。そんな子どもたちの様子は、大人になって忘れていた純粋さを思い出させてくれ、自分も子どもの頃に戻ったような、そんな気にさせてくれます。

子どもは教えたことをどんどん吸収し、上達していきます。自分自身の経験からも言えることですが、昨日できなかったことが今日できるようになれば、それが喜びや達成感になり、もっと頑張るようになります。私は、そのような喜びや達成感を子どもうちにたくさん味わってほしいですし、そう感じてもらえるように日々教えていきたいと思っています。



教室の様子